

救急現場に駆けつけ、患者さんに対して適切な処置を行い、救急車で病院へ搬送する部隊が「救急隊」。さらに、特別な救助器具を装備し、人命救助のエキスパート集団として活動するのが「救助隊（レスキュー隊）」である。浜松市内には、救急隊が21隊、救助隊が6隊配置されている。他、水難救助隊、山岳救助隊、消防ヘリコプターも完備され、市内の安全体制が保たれている。

広域を網羅する 救急隊・救助隊の拠点

21 隊

8 隊

救急隊
救助隊



**夜間休日の安心体制
浜松方式**

浜松では、1次救急医療（入院や手術など）を必要としない軽症者を担当する夜間救急室から、眼科や耳鼻科産婦人科が待機する15次救急医療、2次救急医療（総合病院）、24時間高度救命処置に対応する3次救急医療まで緊密に連携。全国に先駆けて整備されたこの救急医療体制は「浜松方式」と呼ばれ、それぞれをネットワーク化することで安心な救急医療を実現している。



我々が誇る 浜松の救急体制！

浜松では救急隊と医療機関との連携によって、救急医療体制をつくり上げている。そして常にどうすれば、より早く、より正確に、より安全に機能していくかについて話し合うことで、両者の質の向上に努めている。充実した浜松の救急体制は「もしもの時も救ってもらえる」という大きな安心感を私たちに抱かせてくれるのだ。



消防機関と医療機関で意見交換をする頻度
1 月に 1 度

消防×医療がタッグを組む
「メディカルコントロール」。

救急現場から医療機関へ患者さんを搬送する間に、救急救命士や救急隊員が行う応急処置の質を、医学的観点から保障することをメディカルコントロールという。浜松では、消防機関と医療機関が定期的に対等な立場で意見交換を実施することで、両者の質がより向上し、市民からの信頼につながっている。

1日に119番通報の電話が鳴る回数
123.2 回
(火災通報も含む)
(平成22年)

消防指令センターの
「高機能システム」。

119番通報の全てが集約される消防指令センターには、通報地点の情報が特定できる発信地表示装置、災害地点を決定する地図検索装置、災害に応じた出動隊を選別する自動出動指令装置、現場にもっとも近い車両を選別する動態位置管理装置などの高度なシステムが完備され、常に迅速に対応している。